

～広島ミニもみじまんじゅうラウンド～

報告書 H27. 1. 31 (Sun) in 安田女子大学

ちらちらと小雪が舞い、山はうっすら雪景色。冷え込み厳しい1日でしたが、山口、愛媛からの県外参加者も含め総勢31名で、熱く体育の授業づくりについて語り合いました。来年度、全国学校体育研究大会で公開授業を行う学校からも参加していただき、広島「体育熱」の高まりを感じました。今回の研修のメインは、指導内容を明確にした単元構造図の作成ワークでしたが、グループごとの活動が主であり、参加されたみなさん、しっかり語り合いそして学び合い、まさに「チーム」で一つのを創り上げる醍醐味を実感されている様子でした。今回の研修タイトルには「ミニ」と名づけていましたが、内容はとても「ビック」な会となりました。

1 トピックス：「授業づくりのポイント」

佐藤代表から、「①授業ポイントチェック」、「②評価のタイミング」、「③教材のアイデア」という3つの柱で、授業づくりのポイントについて解説をしていただきました。

「②評価のタイミング」では、球技：ネット型（ソフトテニス）を題材に、指導の機会と評価機会についてのグループワークを行いました。時間の都合から、「技能」に絞っての作業でしたが、どのタイミングで評価するとよいか、そのためには、こういった活動内容にしていくのか、逆向き設計で授業をつくっていくその過程を体験しました。参加者からは、「これまでは、授業計画を立てる際、まずは『活動内容』から考えていました。この方法で授業を考えれば、指導するべき内容がはっきりし、評価とリンクしていくんですね。」という声が聞かれました。



2 ワークショップ：「単元構造図の作成」

このコーナーでは、グループごとに学年、領域を決め、単元構造図を作成しました。日野先生から、単元構造図を作成する意図、作成のポイントについての説明をしていただき、グループでの作業へと移っていきました。

説明では、「活動あって指導なし」にならないためには、「この単元で実現したい姿をどう設定するか（ゴールイメージ）」、「何を指導するのか」、「何を評価するのか」、「ねらいに迫っていくためにどのような道筋（学習内容）にしていくのか」、これらのことを明確にし、見える化（可視化）することが大切であることを教えていただきました。

その後、各グループで作成した単元構造図を見合う「交流タイム」を行いました。ここでも「なぜこの評価項目を設定したんですか？」「この活動はどのような意図で組ま



れたんですか？」と、熱心に作成の意図を質問される姿が見られました。終わりに、佐藤代表から、

- ・ 苦手な子への手立てが必ずしも、その子にとってよい手立てになっているとは限らない。苦手な子が安心できる授業を！
- ・ 苦手な先生も「やってみたい！」と思えるような授業提案を！
- ・ 通常の授業にも使えるシンプルなものを！（学習カードを例に）

と、学体研に向けて、メッセージをいただきました。「全ての子供たちが輝く授業づくり」を大切にしたいと改めて思いました。

3 その他

佐藤代表、徳永先生、日野先生、清水先生と、4名の先生からご指導いただき、とても贅沢な会でした。4名の先生方、ありがとうございました。また、準備や片付けをお手伝いいただいた方、がんばれ！とメッセージを送ってくださった方、関係のみなさまに心から感謝しております。ありがとうございました。

今後ますます「チーム体育」の輪が広がっていくよう、頑張っていきます！（報告：清田）